

在宅看護における書籍に記述された災害に関する内容の分析

丸山 純子¹⁾*・栗本 一美¹⁾

1) 新見公立大学健康科学部

(2017年11月15日受理)

わが国は、地理的条件や気候の特徴から地震や台風などによる甚大な被害がもたらされており、在宅看護における災害看護に関する教育内容を検討することは重要と考えた。そこで、CiNii Booksを用いて「在宅看護」をキーワードとし、2010年から2015年8月に出版された在宅看護の書籍を対象に、災害に関する内容を分析した。結果、41のコードから12サブカテゴリ、6カテゴリ【災害サイクルに応じた看護】【災害要援護者に対する看護とこころのケア】【薬剤の管理と看護】【仮設住宅での看護】【訪問看護ステーションの災害対策と役割】【地域全体での防災対策】が抽出された。今後、在宅看護における災害看護には、災害静穏期の備えから災害後の避難所や仮設住宅で生活することを想定した看護の視点が重要であることが示された。さらに薬剤の管理やこころのケアなどに加え、訪問看護や地域包括ケアを活用した地域全体での防災対策など幅広い視点を教授する必要性が示唆された。

(キーワード) 在宅看護、書籍検討、災害看護

I. はじめに

我が国は、地理的条件や気候の特徴から地震や台風、水害などの自然災害が発生しやすく、過去甚大な被害がもたらされている。また近年は、このような国土構造に加え、少子・高齢化、都市圏の過密化、地方の急速な過疎化など、社会構造においても防災社会の基盤整備が未熟な部分があると指摘されている¹⁾。今後、南海トラフ地震や首都直下型地震の発生、津波、豪雨による河川の氾濫などが予測される中、防災対策や災害時の救援活動において医療関係者が果たす役割は重要といえる。

災害医療を鑑みると、1995年に発生した阪神・淡路大震災での教訓から、2005年に災害派遣医療チーム「日本DMAT (Disaster Medical Assistance Team)」が発足し、看護職者にも災害時に実践できる知識と技術の学修が求められるようになった²⁾。

看護基礎教育では、2008年度のカリキュラム改正において、「統合分野」として「在宅看護論」と「看護の統合と実践」が設けられ³⁾、「災害直後から支援できる看護の基礎的知識について理解すること」と明記された⁴⁾。以後、各看護教育機関において創意工夫をしながら災害看護に必要な知識・技術・態度の育成に取り組んでいる⁵⁾。

このような中、2011年に発生した東日本大震災では、最大震度7の地震と広域性の津波が発生し、大規模で複雑化した災害に対し、より専門的な知識と災害看護の調整能力の必要性が報告された⁶⁾。さらに、療養の場が病院から療

養施設、在宅へと移行している現在では、住宅、特に木造戸建住宅については、医療施設や社会福祉施設と比べて耐震化が不十分であり、地震災害時に一次的被害を被る危険性が懸念されている⁷⁾。しかし、在宅看護論教育における教育内容と担当教員の重要視度調査の研究報告によると、訪問看護師に求められる能力として重要視していない項目に、「緊急災害時の看護」が上位に挙げられており⁸⁾、在宅看護における災害看護教育の必要性が示唆されている。これらのことから、在宅看護における災害看護の強化は必須であり、災害に関する教育内容を検討することは重要と考えた。

そこで、本研究では、在宅看護の書籍を対象に、在宅看護の中での災害に関する内容を分析し、今後の在宅看護における災害看護についての教育的基礎資料とすることを目的とした。

II. 研究方法

1. 研究期間

2015年8月～2016年3月

2. 研究対象

東日本大震災による影響も考慮し、東日本大震災以前の2010年から研究を開始した2015年8月までの6年間を対象に、全国の大学図書館等が所蔵する書籍を検索できるCiNii Books (国立情報学研究所目録所在情報サービス)を用いて「在宅看護」をキーワードとし検索した。結果、50冊の書

*連絡先: 丸山純子 新見公立大学健康科学部看護学科 718-8585 新見市西方1263-2

籍が検索された。そのうち、雑誌やビデオ教材、国家試験対策に該当する書籍を除外し、改定版がある書籍では最新版を採用した結果、19冊に集約された。この19冊の書籍を研究の対象とした。

3. 分析方法

抽出された19冊の書籍の項目および全ての頁を確認し、災害に関する記載内容、災害看護に関する記載内容を研究者間で検討した。内容分析に関しては、「災害に関する内容」と「災害看護に関する内容」（以下、「災害・災害看護に関する内容」とする）の記述がある項目から、最小項目をデータとし、コード化した。次に、コード内容の類似性に基づき分類し、カテゴリ化した。また、異なる書籍に同じ項目名が複数抽出された場合には、内容について検討し区別した。

III. 結果

抽出された19冊の書籍のうち、6冊の書籍には「災害・災害看護に関する内容」の記載がみられなかった（表1）。そこで、内容の分析に関しては、この6冊の書籍を除いた13冊を対象とした。この13冊の分析対象を、発行年次ごとの推移と災害に関する内容に関し、2つの視点で分析を行った（図1）。

13冊の書籍の「災害・災害看護に関する内容」の内容分析を行った結果、総コード数は41となり、12サブカテゴリ、6カテゴリが抽出された（表2）。以下の文中においてカテゴリは【 】、サブカテゴリは〔 〕、コードは< >として表記する。

抽出された6カテゴリは、【災害サイクルに応じた看護】【地域全体での防災対策】【災害要援護者に対する看護とこころのケア】【仮設住宅での看護】【訪問看護ステーションの災害対策と役割】【薬剤の管理と看護】であった。

1. 書籍の発行年代ごとの推移

抽出された19冊の在宅看護の書籍を発行年代ごとに分析すると、2010年から2015年の全ての年代において、「災害・災害看護に関する内容」の記載がある書籍が発行されていた。発行された年代ごとの推移を図1に示す。

次に、災害・災害看護に関する内容が記載されていた13冊の書籍の内容を発行年代ごとに鑑みると、2010年発行の書籍には、「在宅看護の基本理念」や「人工呼吸器装着中の環境整備」の大項目の中に緊急・災害時の看護が項目立てられていた。その内容は、災害看護の定義や災害時と健康問題、経時的健康問題、緊急対応システムの確立、家族介護者への指導や配慮、地域見守りサービスの活用などであった。2011年発行の書籍には、「療養支援」の大項目の中に災害時の対応が記載されていた。その内容は、日々の療養支援における停電時の準備や対応方法についてマニ

ュアルを設置し、家族と確認することの必要性などであった。2012年発行の書籍には、「災害対策と災害時の連携」として大項目に項目立てされ、災害サイクルに応じた対策の実際と在宅看護の役割について記載した書籍や、「状況別・処置別在宅看護のスキル」として災害対策の必要性が組み込まれたもの、「慢性疾患をもつ在宅療養者」の中に災害時の備えとして平常時からの準備の必要性が記載されていたものがあった。2013年発行の書籍には、「在宅における安全性の確保」や「在宅で行う呼吸ケア」の大項目の中に、災害時の訪問看護の役割や災害サイクル別看護が記載されていた。2014年発行の書籍には、「在宅ケアにおける災害看護」や「災害時の安全管理」、「在宅療養者の暮らしの観察」の大項目の中に記載されていた。その内容は、災害サイクル別看護や災害時における生活上のケアニーズ、こころのケア、仮設住宅での看護、災害時の地域との連携、訪問看護ステーションにおける災害に対する備えなどであった。2015年発行の書籍では、「在宅ケアの連携とマネジメント」、「在宅看護のリスクマネジメント」の大項目の中に、災害発生時の安全管理や防災対策、地域防災計画における位置付けと役割が記載されていた。

また、災害の記載がない書籍は、実習指導やマニュアル、看護過程の展開や関連図、家族看護の内容であった。

2. 13冊の書籍に記述された災害に関する内容分析

1) 災害サイクルに応じた看護

【災害サイクルに応じた看護】とは、災害サイクル別での看護や対応を意味し、〔災害サイクル別看護〕〔緊急・災害時の看護〕〔安全対策・災害時の備え〕から構成された。

〔災害サイクル別看護〕は、災害静穏期、急性期、亜急性期、復旧・復興期といった<災害の分類>に加え、<災害急性期・亜急性期のケアニーズ><中・長期的ケアニーズ>など各災害サイクルのケアニーズに対する看護の

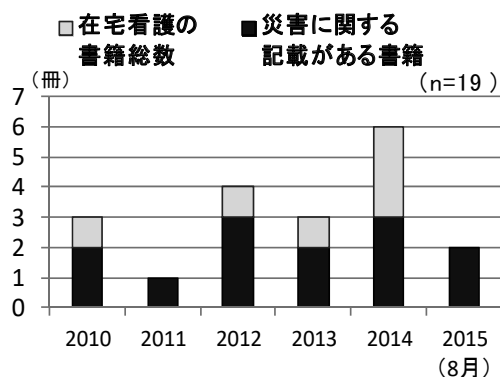


図1 発行年別にみた在宅看護の書籍総数と災害に関する記載がある書籍数

在宅看護における書籍に記述された災害に関する内容の分析

表 1 研究の対象書籍一覧

| 書籍名 | 著者 | 災害・災害看護の内容が記載された大項目 | 出版社 | 発行年 |
|---|----------------------|----------------------------------|--------------|------|
| 在宅看護論実習指導ガイド：訪問看護ステーションでの学び | 佐藤美穂子, 本田彰子 編集 | 記述なし | 日本看護協会出版会 | 2010 |
| 在宅看護論：実践をこばに | 杉本正子, 眞船拓子 編集 | 在宅看護の基本理念 | ヌーヴェルヒロカワ | 2010 |
| 在宅看護技術マスターQ&A：実践できる皮膚ケア・栄養ケアマネジメント・呼吸ケア | 角田直枝編 | 人工呼吸装着中の環境整備 | 学研メディカル秀潤社 | 2010 |
| 在宅看護実習ガイド | 山田雅子編 | 療養支援 | 照林社 | 2011 |
| 在宅看護論：自分らしい生活の継続をめざして | 石垣和子, 上野まり 編集 | 災害対策と災害時の連携 | 南江堂 | 2012 |
| よくわかる在宅看護：知識が身につく!実践できる! | 角田直枝編 | 状況別・在宅看護援助のスキル 処置別・在宅看護援助のスキル | 学研メディカル秀潤社 | 2012 |
| 在宅看護学講座 | スーディ神崎和代 編 | 慢性疾患をもつ在宅療養者 | ナカニシヤ出版 | 2012 |
| 在宅看護論 | 村松静子編著 | 記述なし | メヂカルフレンド社 | 2012 |
| 在宅看護論 | 河原加代子著者 代表 | 在宅における安全性の確保 | 医学書院 | 2013 |
| 在宅看護クイックマニュアル：基本からとっさのときまで | 藤原泰子著 | 記述なし | 真興交易(株)医書出版部 | 2013 |
| 実践できる在宅看護技術ガイド | 角田直枝編集 | 在宅で行う呼吸ケア | 学研メディカル秀潤社 | 2013 |
| 在宅看護 | 水戸美津子編集 | 在宅療養者の暮らしの観察 | 中央法規出版 | 2014 |
| これからの在宅看護論 | 島内節, 亀井智子 編著 | 在宅ケアにおける災害看護 | ミネルヴァ書房 | 2014 |
| 在宅看護過程：関連図で理解する | 正野逸子, 本田彰子 編著 | 記述なし | メヂカルフレンド社 | 2014 |
| 在宅看護学 | 波川京子, 三徳和子 編集 | 災害時の安全管理 | クオリティケア | 2014 |
| ICFモデルを用いた在宅看護過程の展開 | 関永信子著 | 記述なし | ふくろう出版 | 2014 |
| 家族看護を基盤とした在宅看護論 | 上野まり編集 | 記述なし | 日本看護協会出版会 | 2014 |
| 地域療養を支えるケア | 臺有桂, 石田千絵, 山下留理子編 | 在宅ケアの連携とマネジメント | メディカ出版 | 2015 |
| 在宅看護技術 | 正野逸子, 本田彰子 編著 | 在宅看護のリスクマネジメント | メヂカルフレンド社 | 2015 |

表2 在宅看護における災害に関する記載があった書籍の最小項目のカテゴリ表

| カテゴリ | サブカテゴリ | コード(小項目) | 書籍名 | 発行年 |
|---------------------|--------------------|---------------------------|--------------------------|------|
| 災害サイクルに応じた看護 | 災害サイクル別看護 | 緊急・災害時の対応 | 在宅看護論：実践をこばに | 2010 |
| | | 災害の分類 | 在宅看護論：自分らしい生活の継続をめざして | 2012 |
| | | 静穏期 | 在宅看護論：自分らしい生活の継続をめざして | 2012 |
| | | 亜急性期 | 在宅看護論：自分らしい生活の継続をめざして | 2012 |
| | | 災害発生時 | 在宅看護論：自分らしい生活の継続をめざして | 2012 |
| | | 災害時の対応 | 在宅看護論(医学書院) | 2013 |
| | | 災害時の対応 | 在宅看護実習ガイド | 2011 |
| | | 災害発生時の対応 | 在宅看護学(クオリティケア) | 2014 |
| | | 災害急性期・亜急性期のケアニーズ | これからの在宅看護論 | 2014 |
| | | 中・長期的ケアニーズ | これからの在宅看護論 | 2014 |
| | 緊急・災害時の看護 | 災害時の看護 | 在宅看護論：実践をこばに | 2010 |
| | | 急変時の看護 | よくわかる在宅看護：知識が身につく!実践できる! | 2012 |
| | | 災害時の看護 | 在宅看護論(医学書院) | 2013 |
| | | 影響の把握と緊急処置 | 在宅看護(中央法規) | 2014 |
| | 安全対策・災害時の備え | 安全対策・災害時の備え | よくわかる在宅看護：知識が身につく!実践できる! | 2012 |
| | | 災害への備え | 在宅看護論(医学書院) | 2013 |
| | | (人工呼吸器装着中の環境整備)災害時・緊急時の対応 | 実践できる在宅看護技術ガイド | 2013 |
| | | (在宅酸素療法HOT)災害時・緊急時の対応 | 実践できる在宅看護技術ガイド | 2013 |
| | | 医療器具の備えと看護 | これからの在宅看護論 | 2014 |
| | | 電気医療器具の電源確保 | これからの在宅看護論 | 2014 |
| | | 災害予想時の対応(台風・大雨洪水・津波・高潮など) | 在宅看護学(クオリティケア) | 2014 |
| | | 災害看護と在宅ケア | これからの在宅看護論 | 2014 |
| | | 災害発生時の安全管理 | 在宅看護技術 | 2015 |
| 地域全体での防災対策 | 療養者と家族のための防災対策 | 利用者・家族の防災意識を高める | 在宅看護学(クオリティケア) | 2014 |
| | | 災害時の在宅療養者のための防災対策 | 地域療養を支えるケア | 2015 |
| | 地域住民とともに行う防災対策 | 事故防止のための立案 | 在宅看護(中央法規) | 2014 |
| | | 地域住民、関係者とともに | 地域療養を支えるケア | 2015 |
| | 他機関と連携した地域防災計画 | 地域の他機関との連携 | 在宅看護学(クオリティケア) | 2014 |
| | | 地域防災計画の中での位置付けと役割 | 地域療養を支えるケア | 2015 |
| 災害要援護者に対する看護とこころのケア | 災害要援護者に対する看護 | 要介護高齢者の在宅ケアニーズの特徴 | これからの在宅看護論 | 2014 |
| | | 難病者・障害児者の在宅ケアニーズの特徴 | これからの在宅看護論 | 2014 |
| | | 妊産婦・乳児の在宅ケアニーズの特徴 | これからの在宅看護論 | 2014 |
| | 精神健康障害とこころのケア | 災害後に生じやすい精神健康障害 | これからの在宅看護論 | 2014 |
| | | 災害時のこころのケアと注意点 | これからの在宅看護論 | 2014 |
| 仮設住宅での看護 | 仮設住宅のケアニーズ | 仮設住宅のケアニーズ | これからの在宅看護論 | 2014 |
| | | 仮設住宅居住者のケアニーズの把握 | これからの在宅看護論 | 2014 |
| | 仮設住宅での看護 | 仮設住宅での看護支援 | これからの在宅看護論 | 2014 |
| 訪問看護ステーションの災害対策と役割 | 訪問看護ステーションの災害対策と役割 | 訪問看護の役割 | 在宅看護論(医学書院) | 2013 |
| | | 平常時からの訪問看護ステーションにおける災害対策 | 在宅看護学(クオリティケア) | 2014 |
| 薬剤の管理と看護 | 薬剤の管理と看護 | 休業によるリスクが高い治療薬 | これからの在宅看護論 | 2014 |
| | | 薬剤の管理と看護 | これからの在宅看護論 | 2014 |

記述があった。〔緊急・災害時の看護〕は、＜災害時の看護＞＜災害時の対応＞として、災害時にはまず情報を迅速に収集・整理を行い、患者の安否確認を行いながら＜影響の把握と緊急処置＞に努めるなどの記述があった。また、〔安全対策・災害時の備え〕は、人工呼吸器の装着や在宅酸素療法において、災害時のライフラインの途絶に備えた日頃からの＜医療器具の備えと看護＞や＜電気医療器具の電源確保＞の重要性に関する記述があった。

2) 地域全体での防災対策

【地域全体での防災対策】とは、〔療養者と家族のための防災対策〕、〔地域住民とともに行う防災対策〕、〔他機関と連携した地域防災計画〕から構成された。

〔療養者と家族のための防災対策〕は、在宅療養者の多くは災害時に自ら避難することが困難であり、医療関係者や関係職種が常に側にいる状況ではないため、日頃から＜利用者・家族の防災意識を高める＞関わりを持つことの重要性が記述されていた。また、自宅付近のハザードマップの作成や連絡先の確認を行い、ライフライン停止時における医療機器の代替方法など＜災害時の在宅療養者のための防災対策＞を家族とともに行う必要性が記述されていた。〔地域住民とともに行う防災対策〕は、在宅療養者は地域に点在しており、災害が起きた場合には避難所への避難が困難なことが想定されるため、＜事故防止のための立案＞や緊急時の搬送方法に関して人的公的資源を＜地域住民、関係者とともに＞整理しておくことの重要性が記述されていた。〔他機関と連携した地域防災計画〕は、在宅看護において、地域の医療や福祉、行政など様々な機関と連携した防災計画を意味しており、日頃から＜地域の他機関との連携＞を持ち、＜地域防災計画の中での位置付けと役割＞を明確にしておくことの記述があった。また、行政や地域の他機関に加え、看護協会、訪問看護ステーション連絡会、医薬品メーカー、医療機器会社なども支援・協力体制を整備し、地域防災会議などで救援物資や医薬品類の供給方法について具体的に相談しておく必要性が述べられていた。

3) 災害要援護者に対する看護とこころのケア

【災害要援護者に対する看護とこころのケア】とは、災害時において特に配慮や支援を要する災害要援護者に対する看護とこころのケアを意味し、〔災害要援護者に対する看護〕〔精神健康障害とこころのケア〕で構成された。

〔災害要援護者に対する看護〕は、災害後早期から健康状態や身体機能が特に悪化しやすい＜要介護高齢者の在宅ケアニーズの特徴＞、災害時に医療機器が使用できない状況が生命の危機に直結する＜難病者・障害児者の在宅ケアニーズの特徴＞、災害時における母体への負担や急な出産、母乳不足、乳児の安全管理といった＜妊産婦・乳児の在宅ケアニーズの特徴＞が記述されていた。また、〔精神健康障害とこころのケア〕は、突然の出来事から引き起

こされるストレス反応や抑うつ状態、悲嘆反応など＜災害後に生じやすい精神健康障害＞と、災害後に生じる精神健康障害の特徴を理解し、被災者の辛さに寄り添いながら必要な支援につなげていくといった＜災害時のこころのケアと注意点＞に関する記述があった。また、居住環境の変化や避難所の生活における生活機能の低下、ストレスや不安、過労などから症状悪化を防ぐ予防的視点の重要性が記述されていた。

4) 仮設住宅での看護

【仮設住宅での看護】とは、災害発生後の仮設住宅における看護を意味し、〔仮設住宅のケアニーズ〕〔仮設住宅での看護〕で構成された。

〔仮設住宅のケアニーズ〕は、避難所から恒久的な住まいに移行するまでの仮の住まいである仮設住宅では、コミュニティが分断されやすく、孤立死や孤独死を予防するなど特有の＜仮設住宅のケアニーズ＞に関して記述されていた。また、仮設住宅において個別訪問による聞き取りの実施や支援マップの作成など＜仮設住宅居住者のケアニーズの把握＞をすることの重要性が記述されていた。さらに、〔仮設住宅での看護〕として、仮設住宅の居住環境や生活の困難さなどについて行政や地区担当保健師らと協力しながら健康チェックを行い、適切な医療につないでいく＜仮設住宅での看護支援＞を継続する必要性が記述されていた。

5) 訪問看護の災害対策と役割

【訪問看護の災害対策と役割】とは、訪問看護ステーションや訪問看護師の災害対策と役割を意味し、〔訪問看護ステーションの災害対策と役割〕で構成された。

災害時には、地域の生活に密着した＜訪問看護の役割＞として、外部から駆け付ける緊急医療支援チームに対する情報提供や日常生活の支援、多職種による連携体制の構築の必要性が記述されていた。また、災害時には、療養者の健康面だけでなく生活面の不安も増加するため、療養者を支える介護者に対する支援や避難方法などの事前指導が必要であることが記述されていた。さらに、訪問看護ステーションの設備や備品対策、連絡先リストや災害フローチャートの作成、通信・移動手段対策など災害に備える体制を整備し、＜平常時からの訪問看護ステーションにおける災害対策＞を強化しておく重要性が記述されていた。

6) 薬剤の管理と看護

【薬剤の管理と看護】とは、災害時における薬剤の服薬管理と関連する看護を意味し、〔薬剤の管理と看護〕で構成された。

糖尿病治療薬やステロイド、循環器・精神神経用薬などといった＜休薬によるリスクが高い治療薬＞や、緊急時に備えて薬やお薬手帳を日頃から携帯するなどの＜薬剤の管理と看護＞に関する記述があった。休薬による症状の悪化に加え、服薬を中断していても自覚症状が乏しい状態も

あるため、医療者が災害後の巡回訪問や健康相談の機会を通して、服薬の中断や健康障害のリスクを判断し、医療機関へつなげる必要性が記述されていた。

IV. 考察

書籍に記述された災害に関する内容を在宅看護における教育的観点から分析し、考察する。

1. 書籍の発行年度別にみた経時的な特徴

対象書籍に記述された災害に関する内容を発行年度で鑑みると、2010年から2015年にかけてすべての年代で災害・災害看護に関する内容が記述されていた。このことは、在宅看護において災害対策が重要視されてきたことに加え、看護基礎教育における2008年のカリキュラム改正により、「統合分野」内の「看護の統合と実践」に、災害看護が導入されたことが影響したと考える。2011年の東日本大震災を受け2012年に発行された書籍には、「災害対策と災害時の連携」として大きく項目立てされており、【訪問看護の災害対策と役割】は2013年から、【地域全体での防災対策】【災害要援護者に対する看護とこころのケア】【仮設住宅での看護】【薬剤の管理と看護】は2014年から項目立てた記述がみられた。これらは、在宅看護における災害看護の必要性和、被災後の長期にわたる生活に関して、より具体的に捉えられてきたためと推察する。また、2015年発行の書籍では、災害対策を在宅看護におけるリスクマネジメントとして捉えており、地域包括ケアの推進と共に、災害発生時の安全管理や防災対策として地域防災計画に位置づけていく重要性が示唆された。

2. 在宅看護に必要な災害看護の教育的示唆

本研究で対象とした書籍のうち、在宅看護における災害・災害看護に関する内容としては、災害サイクルに応じた看護に関する記載が最も多かった。災害静穏期、急性期、亜急性期、復旧・復興期といった災害サイクルのケアニーズに合わせた看護と、日頃からの備えとして連絡方法の確認や非常時の電源確保、蘇生バッグの準備など療養者に必要なものを整備しておく重要性が記述されており、日常的な訪問看護において繰り返し指導することが重要と考える。しかし、生活の場である在宅において、避難経路の確保のためベッド周囲の家具の配置を工夫したり、実際の避難訓練を実施したりするなどの具体的な記載は少なかった。よって、各療養者と家族の状況や生活環境に合わせた具体的な対策を検討することが必要であろう。

金谷ら⁹⁾は、療養の場が病院から療養施設、在宅へと拡大している現在、住宅の構造上の耐震性の脆弱さがもたらす被害の拡大や支援までに時間を要することを懸念している。医療設備が十分ではない在宅において看護職者は、災害が発生していない静穏期から、災害要援護者になりう

る療養者が、地域のどこでどのような支援を必要としているのかを把握し、災害へ備えておくことが求められる。そして、災害の発生から復興までをサイクルとして捉え、各サイクルの経時的ケアニーズを把握することに加え、地域の多機関との連携を強化し、災害対策ネットワークの確立や情報の共有方法について協議しておくことが重要である。宮崎¹⁰⁾は、平常時からの地域住民や関係者との信頼関係が、災害時の活動推進の基盤となっていたと報告している。その反面、活動体制の再編・調整を妨げた要因として医療チームの行政への理解不足を挙げており¹¹⁾、被災地域で持続的な支援活動が地域全体で図れるよう、行政や消防、警察組織に加え、病院、保健福祉施設、在宅支援事業所や訪問看護ステーションなど地域の多機関と、地域包括ケアを活用した顔の見える関係性の構築が必要であると考える。また、人工呼吸器や在宅酸素、輸液ポンプなどの医療器具業者、福祉用具業者、地域のことを熟知している民生委員などとも災害時を想定した対応を協議しておくことが求められる。さらに、地域住民とともに防災フォーラムの開催や避難訓練といった地域全体での防災対策を実施することが、在宅看護における災害教育の視点として重要である。

また、災害急性期には、全国から医師会やDMAT、医療NPO等による医療支援が集团的に被災地域に介入する。しかし、在宅看護における災害看護に関しては、災害急性期の時点から、中・長期的視野で捉えた看護の視点を持つことが求められている。このことは、2011年の東日本大震災を受け2014年に発行された書籍に、避難所や仮設住宅での生活、こころのケアなどが重点的に記載されていたことから推察できる。さらに、災害時には、薬の持ち出しができず、医療機関や薬局も被害を受けた場合、服薬を中断せざるを得ない状況が想定される。加えて、避難所や仮設住宅では、食料や飲料水の確保が困難であり、塩分や糖質などに偏った栄養補給による持病の悪化も予測される。そのため、あらゆる年齢や疾患を対象とする在宅看護における災害教育には、糖尿病や循環器疾患といった慢性疾患、透析治療者、精神疾患や難病患者など、休薬のリスクが高い薬剤管理に着目した内容の教授が重要と言える。そこで、療養者や家族に対し、緊急時に備えたお薬手帳の携帯を日頃から意識付けることや、被災時の休薬に関して、各支援者へ早急に伝えることを指導する必要がある。

中・長期的視野で捉えたと、2014年発行の書籍に災害要援護者の生活上のケアニーズに関する対応が詳細に記載されていたことから、避難所や仮設住宅での生活がもたらす感染症や生活不活発病、エコノミー症候群、妊娠中毒症、PTSD（外傷後ストレス障害）など、看護の力で防ぐことができる疾病への予防的視点が重要と言えよう。また、東日本大震災では、行政や医療機関の甚大な被害による人的被害とデータの喪失などにより、災害要援護者の把握が

できずに迅速な支援に困難な状況が生じた¹²⁾。加えて、様々な理由で避難所に行けず在宅で生活せざるを得なかった在宅避難者は、行政的には被災者とされず、食料や物資の調達が困窮した現状が報告されている¹³⁾。これを受けて、内閣府が在宅避難者への対応として「避難所における良好な生活環境の確保に向けた取組指針」¹⁴⁾に明記したように、被災地域の避難所だけに目を向けるのではなく、その地域において在宅で避難生活を送ることを余儀なくされた在宅避難者に対しても、情報の発信や細やかな支援が必要である。そのためにも、地域医療の重要な存在である看護職者が、専門性を発揮し、関係機関と対策を講じて情報を伝えながら健康相談や巡回診療といった看護を継続していくことにより、的確に福祉避難所や専門の医療機関へとつなげることが可能であると考えられる。

災害発生時には、その地域の訪問看護ステーションや医療機関も被災し、情報も錯綜していることが想定され、迅速な医療や看護が提供できないことが考えられる。そこで、訪問看護の日頃からの関わりの中で、緊急時に必要な手技や対策を療養者や家族が習得できるように指導しておくことは、療養者や家族のセルフケア能力の向上に寄与できるとともに、災害時の不安を軽減することにもつながる重要な役割であると考えられる。同時に、看護職者自身へのストレスマネジメントについても早期から心がけることも重要である。特に、単独での行動を伴う訪問看護師は、災害発生時にも個人的確かな判断と行動が求められる。それゆえに、看護の使命感による自責の念や過酷な惨事ストレスに対し、過度のストレスを抱え込みやすいことが予想されているが¹⁵⁾、今回対象とした書籍にはそこまでの記述はなかった。よって、療養者と家族を身体的・精神的に支える看護職者のストレスマネジメントとして、災害時には訪問看護ステーションや医療機関、精神科専門職員等との連携に努め、早期から定期的な相談を行うなど、被災地域の看護職者を支えるこころのケアの大切さを教授することも必要であろう。

今回、在宅看護の書籍を対象に、在宅看護の中での災害に関する内容を教育的観点から分析した結果、災害サイクルに応じた看護を提供するための日頃からの安全対策や備えが重要であることに加え、地域住民や多機関と連携した地域全体での防災対策が必要であることが示された。また、地域で生活している療養者や障がい者、妊産婦や乳児などといった災害要援護者とその家族のケアニーズを把握し対応していくこと、災害後に生じやすい精神健康障害を理解し、こころのケアに努めることが重要と言える。このことは、看護職者には、災害対応においてあらゆる年代・健康レベルの健康や生活課題に対する役割・機能が求められ、日頃からの看護職者が果たすべき多様で幅広い能力があると明らかにした岩村¹⁶⁾と同様の結果であった。しかし、避難所や仮設住宅で生活することを想定した対応、訪

問看護の災害対策、薬剤の管理といった具体的な内容に関して記述している書籍は限定されており、災害時の看護職者のストレスマネジメントに関する記載はなかったため、これらの幅広い視点を教授していく必要性が示唆された。

V. 本研究の限界と今後の課題

本研究では、在宅看護における書籍を対象としたが、今回、抽出された在宅看護の書籍のうち、災害の記載がない書籍は、看護過程や関連図の理解、家族看護、実習指導に特化した内容であった。そのため、災害に関する掲載がなかったと思われる。しかし、在宅看護では、学生と訪問看護師が各地域を同行訪問する実習形態が特徴であり、実習にも災害を意識した指導を組み込む必要性が求められている¹⁷⁾。そこで、今後、在宅看護のあらゆる場面を活用し、災害看護を意味づけながら教授する必要が示された。

また、2008年に「看護の統合と実践」に科目立てされた「災害看護」との重複を避けるために、在宅看護における書籍への記載に影響が出たことが考えられる。今後の研究において、在宅看護における災害看護と科目立てされた「災害看護」の内容を踏まえて総合的に災害看護を捉えていくことが必要であろう。さらに、地域全体での防災対策を強化していくために、大学と地域が協同した内容として発展させることが喫緊の課題である。

文献

- 1) 櫻井しのぶ：海外文献から見た災害看護研究の動向と課題;三重看護学誌,13,1-7,2011.
- 2) 小原真理子：進化する災害看護教育;日本赤十字看護学会誌,14 (1) ,57-62,2014.
- 3) 厚生労働省：看護基礎教育の充実に関する検討会報告書,2016-08-24,<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2007/04/dl/s0420-13.pdf>
- 4) 前掲書3)
- 5) 澤田由美,古城幸子,中山亜弓,他1名：看護系大学における災害看護教育－宿泊による授業形態を体験した学生の学びから教育方法を検討する－;新見公立大学紀要 36,21-26,2015.
- 6) 前掲書1) ,58.
- 7) 金谷泰宏,橘とも子,奥田博子,他4名：地震災害時における難病患者の支援体制の構築;保健医療科学,60(2) ,112-117,2011.
- 8) 増田容子:在宅看護論教育における教育内容の現状と教育の方向性－看護専門学校教員の重要視度調査－;九州看護福祉大学紀要,9,7-15,2007.
- 9) 前掲書7) ,116.

- 10) 宮崎美砂子：大災害時における市町村保健師の公衆衛生看護活動;保健医療科学,62 (4) ,414-420,2013.
- 11) 前掲書10) ,416.
- 12) 島内節,亀井智子：これからの在宅看護論;ミネルヴァ書房,東京,293,2014.
- 13) 前掲書12) ,294.
- 14) 内閣府：避難所における良好な生活環境の確保に向けた取組指針,2013, 2016-9-20,<http://www.bousai.go.jp/taisaku/hinanjo/h25/pdf/kankyokakuho-honbun.pdf>
- 15) 訪問看護ステーションの災害対策：社団法人全国訪問看護事業協会,株式会社日本看護協会出版会,東京,104,2009.
- 16) 岩村龍子:災害対策における看護職が果たす役割・機能と役割・機能を発揮するために必要な能力;岐阜県立看護大学紀要,14 (1) ,61-72,2014.
- 17) 綾部明江,山口忍,鶴見三代子,他1名:在宅看護実習時における震災対応のあり方－訪問看護師へのアンケート調査結果より－;茨城県立医療大学紀要,18,53-60,2013.